

## 平成30年2月4日（日）山県市「子どもの学習支援セミナー」

### 参加者アンケート集計結果

#### 【アンケート項目】

#### （1）あなたのお住まいは、以下のどれですか？

1 山県市 高富地域	25
2 山県市 伊自良地域	5
3 山県市 美山地域	3
4 山県市外	13

#### （2）あなたは、本日どのようなお立場で参加されましたか？（複数回答あり）

1 一般住民	8	（市内3）
2 民生委員・主任児童委員	8	（市内8）
3 教員OB	11	（市内10）
4 行政関係	6	（市内4）
5 教育関係	4	（市内3）
6 地域福祉機関	9	（市内5）
7 無記入	4	

#### （3）山県市内において、子どもの学習支援は必要だと思われますか？

1 必要である	30
2 どちらかという必要	11
3 必要だと感じない	0
4 わからない・無記入	5

#### （4）あなたの身の回り（仕事生活上）で、経済状況や生活環境が気になるご家庭はありますか？

1 ある	26	（市内17）
2 ない	3	
3 わからない	16	
無記入	1	

#### （5）山県市内で学習支援活動が始まったら、誘いたい子どもはいますか？

1 いる	14	（市内14）
2 いない	0	
3 わからない	30	
無記入	2	

#### （6）あなたは、子どもの学習支援に関する活動をしてみたいですか？

1 してみたい	14
2 いつかは関わりたい	20
3 関心はあるができない	3
4 その他・無記入	9

## (7) 学習支援の他に、どのような活動があったらいいと思われますか？

- ・ 子ども食堂
- ・ 子どもを大切に育てることは地域を守ることになるということをしかり根付かせたい。
- ・ フードバンク
- ・ 空き家を集める場に（許認可システム・財政支援）
- ・ 小中高生を中心とする学習支援の場
- ・ 学習支援だけでなく自然体験の場
- ・ 子どもが安心して外遊びのできる場所を増やす
- ・ ボタン付け、図書バックの繕い、名札付け直し、ゴム紐を新しくつけるなど
- ・ 子どもの居場所⇄学習支援
- ・ 食育・料理の仕方・買い物の仕方
- ・ 公園や広場で遊ぶ子どもの姿が見たい
- ・ 近所の声かけ
- ・ 地域や社会の行事への親子参加
- ・ 伝統行事への親子参加
- ・ 支援の場所が近い方がよい
- ・ 学習の場だけでなく、遊び・食事・楽しみのある場所づくり
- ・ 食事・おやつ・楽しみ会
- ・ 子どもが守れる場所づくり
- ・ ネットワーク（サポーター、ボランティア）強化・育成
- ・ 社会に向けて多様な体験の場や活動（学力、社会性、礼節、マナーなどを身につける）
- ・ 居場所（いろいろな年代の人がゆったりくつろげる居場所・学習もできる場）
- ・ 子ども食堂（共働き家庭やひとり親家庭を対象に）
- ・ 子ども食堂などのような大人も子どもも地域のだれでも集まれるような場所（居場所）
- ・ 外遊びをする活動（生きていく知恵、火の起こし方、やきいも大会など）
- ・ 保護者支援
- ・ 居場所
- ・ 高齢者と子どもがコラボできる居場所

## (8) 本日のセミナーのご感想やご意見をお尋ねします。自由にご記入ください。

### ① 全体のご感想

- ・ メディコスの情報コーナーで知って興味をもって参加した。本日具体的な情報を得ることができた。
- ・ 貧困の元を断つことの大切さを認識した。
- ・ 子ども食堂や学習支援の現場の声が聞けてよかった。
- ・ 改めて（貧困の）根の深さ、新たに気づかされた視点等、理解が深められた。
- ・ 学習支援・広く子どもと親の支援の事業が必要なこと、これらの事業を含めた町づくりが必要なこと、今大きな課題で、早速始めなければならない課題だということヒシヒシと感じた。今の大人が何かしたいと思った。
- ・ 市としての仕組みづくりや財政的な支援の必要性を感じた。
- ・ 支援の実情を色々伺えて大変良かった。支援のパターンも様々だと思えた。
- ・ 活動支援の現場の方々の話は、地域の現状がよく見えて参考になった。
- ・ 子どもの貧困についてテレビ等では見たことがある。母子家庭のお母さんが塾に行かせ

- てあげられないと悩んでみえることも知っていた。でも自分は何もしていない。エネルギーのない自分にもできることはないかなあと考えた。
- ・ 子どもの貧困、見えてこないけれど深刻なんだと思う。
  - ・ 子どもを支援する方法には様々な形態があり、その地域、対象となる子どもに合わせた活動があることが理解できた。
  - ・ 貧困の定義、親と子の関係について、貧困の罪→将来を奪われること。
  - ・ 今日の会は何のため？山口市でも作ってほしい。
  - ・ 具体的な学習支援の取り組みを聞いたので良かった。
  - ・ 県下でがんばっている団体、個人がおられることがわかった。
  - ・ 具体的な実践をわかりやすく紹介していただけた。地域の未来について考えることが多い昨今、より一層周りとのつながりを大切にしたい。
  - ・ 今までこれだけくわしく聴かせていただくことがなかったので、今後自分の身の回りのできることをしていきたいと思った。
  - ・ 参加してよかった。
  - ・ 子どもの願い（学習をしたいという）を実現するための仕組み（サポーター）づくりが必要だと思う。
  - ・ 支援の現況を理解でき、今後の参考としたい。
  - ・ 今日のご飯もないくらいの困窮している家庭で育つ子どもが実際にいることを改めて知り、山口市内においても絶対にそのような子どもが居て支援を必要としているだろうが、**実態把握はどれほどできているかわからない**。学習支援というものを広く市民に広げ、困っている家庭の発掘と支援・協力者を確保することが必要だと感じた。
  - ・ 日本の子どもの貧困についての実態や学習支援の課題について、ご講演や現場の方のお話が聞けて、とても勉強になった。学習だけでなく、子どもの体験活動や心のケア等、総合的にサポートされていることが分かった。
  - ・ 参加者が少ないことが残念に感じた。現場からの発表のスクリーンが見にくかったので、発表者に申し訳なく思ってしまった。会場が明るすぎた。
  - ・ （前略）**学校の校長先生や担任の先生や教育委員会などの教育現場の方こそ、今日の会に参加して勉強してほしい**と思った。
  - ・ 知らなかった子どもの姿や社会の状況がわかった。そこで一歩踏み出して学習支援をしておられる方の実践を聞き、すばらしいと思った。
  - ・ 現場からの話はよくわかった良かった。スクリーンの文字が見えないことがあった。
  - ・ いいお話とシンポジウムだった。PTAとか自治会の方とか、もう少し参加者があればよかった。
  - ・ 活動支援の現場のお話を聞かせていただき、とてもよかった。
  - ・ フリー参加という構えがよく、気になっているので、ちょっと行ってみたいという気持ちになった。参加者が少ないということは残念に思ったが、貧困はないという方が多いのかもしれない。ただ実際には未納問題もあるし、行政の対応というレベルではなく、**社会全体で分かり合い、支えあっていくようになっていく必要がある**。まだまだこれからである。
  - ・ 実践者の生の声を直接聞く場は大切だと改めて思った。セミナーに参加して一人一人が感じたことが、何らかの形で行動につながればよいと思う。一人の大きな一歩ではなく、一人一人の一歩が大切。
  - ・ 南出先生のお話からは、今後の課題がわかるような内容だった。地域の普通のおばさんとして地域に目を向けていきたいと思った。

- ・ 基調講演はとてもよかった。「子どもの貧困」についてよく理解できた。後半のシンポジウムの各氏のお話も興味深かった。それぞれの団体の特徴があり、どこも大人のがんばりが支えている活動であるが、子どもから得るものも多いと感じた。常識にとらわれず柔らかい頭で考えていきたい。
- ・ 格差社会が子ども達にも影響を与えているのが悲しい。
- ・ それぞれに活動されていて、それぞれ大切なことだと感じた。
- ・ もう少しシンポジウムの時間があるとよかった。運営・企画の方、お疲れさまでした。
- ・ このまま学習支援をすることは、この市ではむずかしいと思う。山県高校がその現状の鏡である。
- ・ 前半の南出先生のお話・後半の4人の報告、よい企画であると思った。
- ・ 山県市で、これだけ人が集まってくださったことは「希望」である。
- ・ 子どもの貧困の原因は親の貧困、その原因は…と考えてしまう。
- ・ 貧困家庭の子どもだけでなく、共働き、一人親、発達障害、単身赴任、出張が多いなどの家庭の子どもにも居場所が必要だと感じた。だれでも行ける居場所があるといい。

## ② 本日、印象に残ったこと

- ・ いろいろな形態の支援があること、多くの子どもたちが参加していること、私が思っていたより多くの場があったこと、身近に広めた方がよいこと。
- ・ 山県市だけ貧困がないとは思えない。見ようとしない、見えていないだけだと感じた。
- ・ 学習支援だけでなく、居場所として子どもが安心していられる所があるべきだと痛感した。
- ・ 地域の大人と接する機会が少なくなっているの、いろんな人と交わえることが、いろんな意味で学習になるのだと思った。
- ・ 目の前の支援をおろそかにしないことは大切なことで、できることは踏み出さねばと思う。しかし、貧困の本質的な解決は、努めて政治が貧困を解決しなくてはと思う。
- ・ 各々の事例を聞いて、第一歩、第二歩を歩んでおられることに敬意をもった。「早速始めなければならぬ」と思う。
- ・ 外からは見えない貧困が身近にあるという認識に気づいた。
- ・ 南出先生の講演から、貧困は個人的な家庭の問題ではなく、日本の未来をゆるがすような大きな社会問題なんだということが初めてよく理解できた。30年後の山県市を支えるのは、今の子どもたちだと改めて思った。なんとかしなければならぬと思った。
- ・ それぞれの取り組みから山県市で取り入れていくべき事例が多くあった。
- ・ 今日お話を伺った支援を受けてみえるお子さんは幸せだなあと思った。お話くださったみなさんのエネルギーはどこから出てくるんだろうと思った。
- ・ 貧困はお金だけではない、社会関係の狭さや乏しさにつながるのは本当だなあと思う。豊かな体験がない、少ないことから、いくつものことに挑戦しないで尻込みしてしまうのだろう。
- ・ 顔の見える環境でのつなぎ、放課後児童クラブでの関わり。
- ・ 山県市の事例発表で、現在は自宅では実施していないと聞き残念に思う。しかし、他の施設（若松学園）で再開されたと聞き、ほっと安心した。
- ・ 援助する思いだけでは継続できない。行政の支えが大切である。
- ・ 地域社会の中で取り組みを継続している人々が多いのに驚いた。子どもたちが安心感を求めていると感じ取れる社会にしていく力を大切にしたい。
- ・ お母さん方が苦勞して子育てをしていらっしやることを地域で手助けができたらと思う。
- ・ 学習支援の大切さ。

- ・ 貧困格差の増大が子どもの夢に影響を与えていることが最大の課題であると思った。働き方改革もよいが、収入の改革も必要ではないか。
- ・ 自分は高校教師なので、できることがあるといいかなと思った。
- ・ 学習支援ネットづくり。
- ・ 子育てはあくまでも家庭が基本という考えもぬぐい難いだが、実践を伺うことによって、周囲のサポートが不可欠だということが分かった。南出先生のお話にあったように、「貧困」は家庭の事情によって、知られたくないというのが「本音」だと思うので、一人の隣人として何ができるのかを考えたいと思った。
- ・ 現在の社会が「貧困」を作ってしまった。地域で取り組んでいかないと、個人で取り組んでも、貧困は解決されないと思う。子どもを育てるのは家族であり、地域であると思う。活動してみえる発表者の方、他の支援をされている方に、頭が下がる。
- ・ 今現在10才の子どもたちが、30年後の山県市を担う。地域の将来を見すえて、今私たちが何をすべきか考えさせられた。
- ・ 学習塾の先生や元教員など学習支援ができる方が大勢集ってみえるようなので、今後活動していただけるといい。
- ・ 子どもと学生、大人が見える「地域のたまり場」→人と人の地域づくりの拠点。今後の人生において、自分の生きがいやよりどころを考えないといけない。
- ・ 子どものために働いている人がいることを力強く思えた。
- ・ 4人の実践者の生の声、特に困っていることや思いが伝わってきた。「個人の活動には限界がある」。一生懸命取り組んでも、(取り組むからこそ)、難しさがあることがよくわかった。
- ・ 自分の子のことだけでなく、地域の子どもたちを育てる、目を向けることが必要だということに改めて感じた。
- ・ すべての子どもにある人権を保障できるよう、未来のある子どもの生活を実現していくために、大人もできることをやっていきたい。
- ・ 学習支援の大切さがわかった。(後略)
- ・ 子どもたち自身が自分で通える所に安心した場があること。
- ・ この市(山県市)の実態を理解した上で行った方がよい。
- ・ 実際に学習支援を行っている方の、容易なことではなく、難しい中を継続する中で、地域の人とのつながり、一緒に学習支援に加わってくれる人を広げている。
- ・ 時間をかけて、子どもさんと信頼関係を築いて、色々なことが話せる安心した関係を築いている。
- ・ 身近な所、地域に支援を必要とする子がいるのに、なかなか気づかずにいると思った。

### ③ 日頃、気になっていること

- ・ 貧困といえるお子さんの家庭環境を整えてあげたい。
- ・ 貧困の連鎖。
- ・ 「福祉としての学習支援」「人権としての学習支援」という視点や発想での活動は、行政として、個人として、どうあるべきか…。
- ・ 夏休みなどの休みの日の過ごし方。
- ・ 毎朝、子どもの登下校を見守っているが、この中にもきつっているのか?と考えてしまう。
- ・ ニュースなどで、「子どもの貧困」という言葉を聞くようになって、実態がどうなのか気になっている。
- ・ 家庭や地域によって、教育環境の格差が生じていることが気になる。
- ・ 自分でも何かできることは…と思いながら、子どもに何かあったら責任がとれるだろうか

と思うと、一歩が踏み出せない。

- ・ 山県市の場合、絶対数も少ないし、**地理的な障害もあると思う**。学習支援の場を作っても、そこまで来るためにどうすればよいか起きる。
- ・ 地域で子どもたちの姿をあまり見なくなったなあと思う。
- ・ 社会保障や教育問題等、行政改革がなされる一方で、身近な人との対話、声かけ、励ましを自分でできる範囲で続けたい。隣近所の人とのつながりが薄いとを感じるから。
- ・ 知り合いに発達障害の子をかかえている人がいるが、周囲の子とのコミュニケーションがとれず、学校へ呼び出されることがあったそうだ。職場に相談相手がいるお母さんは、話を聞いてもらい、まだいいが、学校の先生とゆっくり話ができないお母さんは、精神的に疲れていると思う。貧困家庭とは、また違うが、**気軽に相談できる人や場所が身近にあったら**と思う。
- ・ 地域に子どもが少なく、なかなか現状が見られない。南出先生が言われるよう、自分から見ようとするように心がけ、関わっていかれたらと思う。
- ・ **放課後児童クラブ**があるが、そこで心の貧困の子が増えたと感じている。親の都合で夜7時近くまでクラブにいる子もいる。経済的なこともあり仕方がない。が、中には、子どもの心の奥まで考えてもらっていない子もいる。そうした子は、クラブで気持ちを発散しているのか、大変な行動に出る子もいる。こうした子たちにも、貧困の影響だと言えると感じている。
- ・ 子どもが自分で歩いたり、自転車で行けたりする所に、それぞれ小さい規模でいいので、できるといい。しつけや安心できる場所づくりができるように。
- ・ 学校では支援できないか？塾の立場は？貧困の連鎖については、どう考えればいいのか？
- ・ 困っている子の心の叫びを聞きたい。
- ・ 山県市が自分ごととして本気で取り組んでいないことこそ気になる。それは見えていないからだが、見ようとする、視点をはっきりさせていきたい。
- ・ 未納金、宿題、朝食、寝る時刻、虫歯など。
- ・ 他の市町村で「学習支援」の活動を始めても、申込者が少ないという問題がある。必要な子に、必要な支援が届くように、さらにそれを継続していくには、どうしたらいいか…考える日々である。
- ・ **「目に見えない貧困」**という言葉がとても気になる。
- ・ 生活保護を申請に行くにも市役所や支所にいる職員は顔見知りで、恥ずかしいから行けないという実態を知った。
- ・ この世の中どうなるのか。不安でしかたがない。
- ・ 貧困、家庭状況が見えないことで支援がむずかしい。
- ・ 学習支援＝子どもの貧困は、貧困の入り口で、そこから見えてくる格差や社会問題をもっと多くの人に知ってもらいたい。
- ・ (市外) ○○寺というお寺さんが、場所・昼食を無償で提供してくださり、恵まれた条件があるが、支援する方も、教員OB、塾講師も揃っている。まだ始めて一年ちょっと。もう少し多くの子どもが利用するようになればうれしいと感じている。
- ・ 自分にできることは、ほんの小さなことでも、何かできればと思っている。

#### ④ 今後、考えてみたいこと

- ・ 地域の見守り、学習支援や野外活動を支える仕組み。
- ・ 山県市内で、この指止まれで始めましょう。(中略) 山県市でも、**関係者が集まって検討する会を立ち上げ、組織的に事業化できないか**と思う。子どもにかかわる「仕組み」「財源」「ボランティア」「コーディネーター」が必要だと思う。

- ・ 県でも学習支援を行う際に、地域のニーズに合った支援を行っていきたく考えた。
- ・ 子どもだけでなく、お父さんお母さんを支えることが必要だと改めてわかった。
- ・ 子どもの貧困だけではなく、地域のつながりも含めて、ネットワークを広げる、または密にすることが大事かなと思う。
- ・ 貧困の中に親の発達障害によるものもある。貧困だけではない。親の手助け？
- ・ 子どもの集まり方。
- ・ 自分ができること（4月より始める仕事）を中心に幅広い活動にしていきたい。
- ・ 何かの場で協力していきたい。
- ・ 行政と市民が共同で仕組みを作る。小学校校区にいくつかの学習支援の場ができるとよい。できれば、高齢者と子どもが一緒に集まれる場で、いろいろな楽しい計画が作れるとよい。
- ・ 先生・教員OBのネットワークが大切。サポーター、ボランティア作り。
- ・ 放課後児童クラブと一緒にやってすることができないものかと思う。クラブでは学習は教えてもらえない。でも同じ30分学習する中で、学習する姿を見守るだけで、誤りがあっても「お母さんか、先生に、教えてもらって」と言うだけで、大変もったいない気がする。
- ・ 関わる大人の方が、ボランティアにはならないような助成や支援などを考えることが大切である。長期に渡って続けられることが大切である。
- ・ 山県市でも、子どもを支援するシステムをまずは動かしていく。ちなみに、H30年から週1回、各小学校の放課後に巡回で「放課後子ども支援教室（学習支援）」を市教委生涯学習課が行っていくことになっている。
- ・ 地域の活動を行政が支える仕組み、地域の子供が地域で生まれ、その後、そこで働いて生活して、地域を担っていく仕組み。
- ・ 自分では立ち上げるパワーはないので、できる範囲で何かできることを…。まだ仕事をしているので定年になってからか…。
- ・ 活動内容を広めていくことで、何らかの形で関わっていける人がいるのではないか。
- ・ 近くに行けない。安全面など多々問題がある。
- ・ 色んな支援があるが、私にできることは何か？
- ・ 「生活支援」命そのものを支援していくことになる。学習支援から見えてくる生活実態のすさまじさを知った。社会の制度をつくっていく必要性を感じたが、どこから始めていくのか考える。
- ・ 子どもの周りには、大人のあるべき姿。どうあるべきか考えなければいけないと思った。
- ・ 誰でも来てもいいということと、丁寧に一緒に考え、学習で学んでいることがよくわかったということが、広がっていくように、いま一緒に進めている人と協力していくこと、（現在、協力してくれている人が長く続けていけるように運営する）
- ・ 必要な人だけに届けるという流れではなく、広く多様な（困っていない人も含めて）、子どもや家庭が参加したくなる、参加しやすい「場」を作るところから、必要な人がつながってくるようにできたらと思っている。

以上